



南極の大自然の中でキャンプを楽しむ

南極探検をより身近に感じることができるのは、キャンプを張り、ビバークバッグに入り、南半球の星空の下で眠ることです。

極地での冒険を心から楽しみたい方には、南極の大自然を体験できるオープンエアーのキャンプ・アクティビティがお勧めです。私たちは、防風・防水性があり、テントに代わる軽量の通気性ビバークバッグなど、キャンプに必要な装備を提供します。また、極地用スリーピングバッグは、魅惑的な南極の夜を暖かく、ドライに、そして快適に過ごすことができます。すべてのキャンプ参加者は、経験豊富なエクスペディション・ガイドの支援と指導を受けます。



当社のキャンプ活動に関する一般的な情報

- ・キャンプは、天候、サイト条件、および環境規制に基づいて利用できます。
- ・どなたでも参加でき、経験は問いません。
- ・このアクティビティは、ホンディウス、プランシウス、オルテリウスの一部の航海でのみ実施されます。
- ・参加者の最大人員は、1泊あたり30人に制限されています。
- ・すべてのキャンプ・アクティビティは、専門のフィールドガイドが監修しています。
- ・基本的な装備は、オーシャンワイド・エクスペディションズが用意いたします。
(ビバークバッグ、マット、ブーツ)。
- ・旅行前に1泊のキャンプを予約する必要がありますが、追加の宿泊は船内で手配できます(ウェイティングリストなし)。詳細については、各コースのクルーズ代金をご覧ください。

南極キャンプ体験の詳細

指定された各旅行で少なくとも 1 泊のキャンプを目指していますが、エクスペディションチームは可能であればそれ以上を提供します。追加の宿泊は天候や現地の状況によって決定され、船が岸に近い場所にとどまることが可能な場合にのみ提供されます。夜間に船が移動しなければならない場合、キャンプは不可能です。

南極条約と IAATO の規定により、非常食、サバイバル用品、水、医療用品を除き、ストーブ、燃料、食料の陸上への持ち込みは禁止されています。 キャンプ参加者は、夕食後に浜辺に上陸し、朝食前に本船に戻ります。 キャンプは常に野生動物に邪魔されない場所で行います。すべてのキャンパーは、マットレス、インナーライナー付きの合成寝袋、通気性の良いピバークバッグを入れた個人用防水バッグの装備を持参します。これらの個人用品の他に、他の道具も海岸に持って行きます。

キャンパーが浜辺にいる間、私たちのスタッフは常に本船と無線で連絡を取り合っています。ガイドも浜辺に残り、キャンパーを支援し、監督します。キャンプを終えた後、キャンプ地を離れる際には、キャンプ場を清掃し、すべての物を船に戻さなければなりません。

キャンプに持参する服装

南極の状況は急激に変化するため、最悪の天候を想定した荷造りをお願いします。以下は、各自が持参する重要なアイテムのリストです。

- 防寒用下着、フリースベストまたはジャケット、透湿性のあるダウンジャケット（ゴアテックスなど）。
- 暖かい帽子、タートルネックまたはネックゲイター。
- 防寒用アンダーグローブ、フリース製フィンガーグローブ、または防寒用ミトン。
- 厚手の靴下（予備を含む）。
- 紫外線防止効果の高いサングラス。
- 日焼け止めクリームまたは日焼け止め。
- 懐中電灯または軽量のヘッドランプ（2月～3月出発の場合）。

キャンプに必要な装備を提供

- 保温防水ゴム長靴。
- ピバークバッグ（1人様1個）、マットレス。
- コットンライナー付き防水スリーピングバッグ。
- 携帯用フィールドトイレ（1グループにつき1台）。

※特記事項：通常の T シャツやジーンズなどの綿の服はお勧めできません。綿は寒い環境で動いている間、濡れたままになりがちです。防寒用の下着をお勧めします。

気象状況

南極のような遠隔地や野生地域を探検するには、賢明かつ柔軟なアプローチが必要です。明るい日差しが降り注ぐ晴天が続くこともありますが、天候は予測不可能です。氷床や氷河によるカタバティック風（斜面降下風）は、極地を旅する者にとって熾烈な敵です。そのような状況下では、予定していたキャンプ泊がキャンセルになることもあります。現地の事情で陸上でのキャンプができない場合は、船のオープンデッキでキャンプを試みることもあります。

キャンプを行うには、キャンプをする予定のお客様が 10 名以上必要です。一度にキャンプができるのは 30 名様までで、20 名様に 1 名の割合でガイドを配置し、運営をサポートします。

最後に、私たちはキャンプ用具としてテントを使いません。南極でのテントは、風の影響を大きく受けるので、テントを使うとキャンプできる天候が大きく変わってしまうからです。

その代わりに、ビバーク用の寝袋はキャンプを続けられる確率が最も高いということがわかりました。また、ペンギンの鳴き声やクジラの鳴き声など、周りで起こっているすべてのことを見聞きすることができ、最高の体験となります。また、南極の美しい空も眺めることができます。

キャンプに関するよくある質問

食べ物を摂取することは可能ですか？

南極条約およびIAATOの規定により、外部の植物や汚染物質の拡散を防ぐため、陸上で食べ物を食べることは禁止されています。

トイレに行けますか？

南極条約およびIAATOの規定により、陸上でのトイレは避けてください。キャンプをする前に、船内のトイレを使用することをお勧めします。ただし、海岸には簡易トイレが設置されますので、固形物はすべて船に戻してください。キャンプをされる方は、快適に過ごすために「おしっこボトル」（例：開口部の広いナルゲンボトル）を持参されることをお勧めします。

陸上にはどこで、どのくらい滞在するのですか？

旅程、天候、規則に応じて、大陸および、または近隣の島々で近海キャンプを提供します。キャンプグループは最大 10 時間まで海岸に滞在します。

現地の天候や氷の状態がキャンプに適さない場合はどうすればよいですか？

エクスペディション・リーダーは、キャンプ活動が行われるように最善を尽くします。しかし、現地の事情で陸上でのキャンプができない場合、船内のオープンデッキでキャンプを試みることもあります。

経験は必要ですか？

このアクティビティは、経験がなくても誰でも参加することができます。ガイドがキャンプ場の設営や清掃を手伝う以外、体力的な条件はありません。ただし、キャンプ場でのキャンプではないことにご注意ください。岩や雪、泥、凍結した路面があることもあります。キャンプ場の準備や翌朝の撤収の際には、キャンパーに手伝ってもらうことを期待します。すべての装備は使用後、十分に清掃する必要があります。天候によってこれらの作業が難しくなることもあります。

天候はどうでしょうか？

南極大陸の沿岸部周辺では、夏（12月～2月）には概ね氷点下近く、南極半島北部では氷点下をやや上回る気温になります。南極大陸の気温は約 $-5\sim-8^{\circ}\text{C}$ の間で推移し、強風時には氷点下となることもあります。防寒着と柔軟な姿勢、そして冒険心が、この過酷な状況を乗り越えるための最良の方法なのです。